

試聴会・訪問記収載

A 氏邸訪問記(2025.8.18)

1. はじめに

今回の訪問は、前回の A 氏邸訪問以来、2 年と 5 ヶ月になります。今回の訪問の主な目的は、その後の経過の確認と A 氏のご希望により配信音源の光アイソレーションなどの効果の試聴です。A 氏の他にオーディオ仲間 2 氏も参加されました。

2. A 氏邸のシステムの概要と試聴条件

A 氏邸のシステムは、前回の訪問記以降ほとんど変わっていません。今回の試聴システムは、300B 真空管アンプ SV-300 で駆動するヤマハのスーパーツイーター JA0506 付加の JBL4410 です。

今回の試聴対象は持参した次のものです。

LAN iSilencer

OPT ISO BOX : DC ケーブルに Petit Susie Solid State 介在

追加 LAN ケーブル R-AL 1

LAN iPurifier Pro : 電源は iPower2 に変更

追加 LAN ケーブル Ultra Slim Link

試聴する条件は下記のとおりです。

ルーターと PC の LAN 接続の間に上記を介在させます。

音源は、配信サイトから A 氏のご希望と当方推奨の音源を選択しました。

順序としては、拙宅の経験から、効果の小さい方から大きい方へと変わるように下記を想定します。

LAN iSilencer→OPT ISO BOX→LAN iPurifier Pro

3. A 氏邸のシステムの試聴経過



システム全景

A 氏が選択されたベルリンフィルデジタルコンサートホールの HIMARI の演奏するアンコール曲のコリリアーノの小品の配信音源を LAN 接続に上記の順に比較していきました。

アイソレーションなし→LAN iSilencer→OPT ISO BOX→LAN iPurifier Pro

アイソレーションなしでは、JBL の個性が強く、ヴァイオリンの粗さが目立ちましたが、アイソレーションの器材を替えるごとに緻密さがまし、ヴィブラートや重音がはっきりと聴き取れるようになりました。JBL でここまでヴァイオリンがリアルに聴けるのかという声もあがつたくらいです。

この後、LAN iPurifier Pro で、おなじく HIMARI のヴィエニヤフスキのヴァイオリン協奏曲第 1 番、STAGE+から山下洋輔と山本邦山のミュンヘンでのデュオコンサート、ゲオルグ・ショルティ・アカデミアの創立記念オペラガラコンサートのソプラノ、アルト、テノール、バリトンによるヴェルディの椿姫の乾杯の歌、マリア・ドエニヤスのパガニーニの 24 のカプリースなどを聴いていましたが、収録年代の新旧や収録環境の違いなどもはっきり確認でき、椿姫の乾杯の歌の収録環境のライブ感やパガニーニなどもヴィオリンのボウイングの様子が再現されており、LAN iPurifier Pro から OPT ISO BOX に戻した場合も、その違いがはっきり分かりました。

また、HIMARI の演奏の 5.6MHzDSD 録音をメモリーで持参していましたので、PC の HQPlayer で再生したところ、LAN iPurifier Pro 経由のストリーミング再生に近似した録音ができていることも確認できました。

4. まとめ

A 氏のご希望に沿ったそれぞれのアイソレーション器材の特性やベルリンフィルデ

イジタルコンサートホールや STAGE+の配信のクオリティが確認できました。

以上